



写真上段左から 大野さん 村上校長 福泉さん 長谷さん 松田さん 竹内さん 宮岡さん 市尾教諭
 下段左から 有馬さん 武田さん 谷田さん 吉良さん 井上さん 内さん

異文化交流で、新たな自分発見(特集)

～大洲市中学生海外派遣事業～

平成26年度 大洲市中学生海外派遣事業日程

7月28日(月)	大洲市を出発、 関西国際空港からケアンズ空港へ
7月29日(火)	体験活動、各ホームステイ先へ
7月30日(水) ～ 8月1日(金)	体験活動、語学学校で英語の授業
8月2日(土) ～ 8月3日(日)	ホストファミリーと生活
8月4日(月) ～ 8月8日(金)	現地小学校交流事業、語学学校で英語 の授業、ホストファミリーと生活
8月9日(土)	ホストファミリーとお別れ、 ケアンズウォークラリー
8月10日(日)	ケアンズ空港から関西国際空港へ
8月11日(月)	大阪からバスにて大洲市へ到着

大洲市では、次世代の大洲市を担う中学生を対象に、「大洲市中学生海外派遣事業」を行っています。

この事業は、異国の文化や歴史、経済、生活習慣および国民性の違いを肌で感受し、その体験を通して国際的な感覚の涵養と視野を広めることにより、国際化時代にふさわしい人材を育成することを目的に実施されています。

今年度も市内8校、12人の中学生が、7月28日から8月10日までオーストラリアのケアンズに滞在しました。

現地では、ホストファミリーの家庭でホームステイをしながら、オーストラリアの自然や多くの人と触れ合い、さまざまな交流を行いました。

僕は、このオーストラリア研修で、学んだことがたくさんありました。そのなかでも一番心に残っているのは、ホーリークロス小学校で交流をした時のことです。僕たちとは違い、とても積極的で、何より「自由だ!」という気持ちが、はっきりと伝わってきました。時には、周りを気にせず自分の意志で行動できるということは、とても大切なことであり、僕たちが学ぶべきことだと思いました。



大洲南中学校
のぶやす
内 伸泰さん

ホストファミリーの家では、2、3日は食事や会話でとても苦労しましたが、一日一日と日が過ぎるなかで慣れていき、少しずつ会話もできるようになりました。しかしその一方で、自分の英会話の未熟さを痛感しました。だから、これからはより一層勉強に励んでいきます。そして、もっともっと英語が上手に話せるようになったら、もう一度外国へ行こうと思います。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

僕は最初、オーストラリアに行くことが、とても楽しみでした。しかし、いろいろなことに対する不安もありました。



大洲南中学校
だいすけ
井上 大輔さん

オーストラリアでの前半の約1週間は、体験活動をしました。なかでも、熱帯雨林やグレートバリアリーフでは、日本ではできないことを体験できたことが、とても心に残っています。

後半の約1週間は、小学校でバディのクラスで授業を受けました。小学校の授業といっても、話している言葉はすべて英語だったので、正直何を言っているのかさっぱり分かりませんでした。でも、たくさん子どもたちと話したり遊んだりして、とても楽しく過ごせました。

オーストラリアにいた約2週間は、あっという間に過ぎ、たいへん短く感じました。毎日が楽しく充実していて、ここには書ききれないくらいの、たくさん経験を積むことができました。この経験を、今後生かしていけるよう、頑張りたいです。

私は、海外派遣事業で日本では体験できないようなことを、たくさんさせてもらいました。



大洲北中学校
大野 るりさん

まず最初に、熱帯雨林の町キュランダに向かいました。スカイレールに乗って見る大自然に圧倒されました。また、グレートバリアリーフのグリーン島で泳ぐことができたことは、最も印象的な思い出です。透明で想像を超える美しさでした。

ホーリークロス小学校では、テニスやダンスをして、たくさん子どもたちと交流をしました。英語が飛び交っている状況に、最初は戸惑いました。ホストファミリーの家は大きく、庭にはプールがありました。伝わらない英語も多くてジェスチャーを多く使いましたが、ホストマザーの言うことを理解することができたことが嬉しかったです。

このような貴重な体験をさせていただきことに感謝して、英語をはじめこれからの勉強を頑張っていこうと思います。

私は、2週間という長いようであっという間だった今回の海外派遣事業を通して、異国の文化や自然、生活習慣などさまざまなことを学ぶことができました。



大洲北中学校
有馬みなみさん

はじめの1週間は、世界遺産であるキュランダやグリーン島に行き、オーストラリアの広大な自然に触れることができました。毎日お世話になったホームステイ先のホストファミリーや小学校の人たちは温かい人ばかりで、私のつたない英語を一生懸命聞いてくれたり、休日には買い物に連れて行ってくれたり、他にも日本では絶対にできないような体験をさせてもらいました。小学校は時間割や学年の構成など日本の小学校との違いが多く、とても勉強になりました。この2週間で一緒に参加した大洲の仲間はもちろん、オーストラリアにも多くの友だちができました。ここでの思い出は、生涯の宝物です。このような貴重な体験ができたのも多くの人のおかげです。お世話になったみなさま、本当にありがとうございました。



平野中学校
福泉 平里さん

ホームステイ先のアンガーソン家には、8歳になるスカーレットちゃんという女の子がいました。一人っ子の私にとって、かわいい妹ができたみたいでなんだか嬉しかったです。紙ふうせんを投げ

あったり、折り紙で鶴を折ったりと、日本の遊びを楽しみました。

しかし、接着剤「glue」を青「blue」と聞き間違えて、青い折り紙を渡してしまうなど、簡単な単語ですら伝わらないことも度々で、正しい発音の大切さを痛感しました。これから、学校での英語の学習にこの経験を生かしたいです。

今回初めて海外に行って感じたことは、人の気持ちと同じなのに比べれば、多少の文化の違いなどは小さなことではないかということです。オーストラリアで出会った、おおらかで優しい人たちの笑顔を私は忘れません。



大洲北中学校
武田 夏美さん

私は、この海外派遣の中で、貴重な体験をいくつもさせていただきました。特に、私がホームステイした家には、スペインの人やイタリアの人もいて、いろいろな国の話をたくさん聞くことができました。いろいろな国籍

の人と交流ができてとても嬉しかったし、この経験を将来の自分にも生かされるようにがんばりたいです。

この海外派遣は、たくさんの人たちの協力のおかげで実現できたものだという事を改めて知りました。オーストラリアに行く前にも、行ってからも、たくさんの人たちが私たちの面倒を見ていただき、気にかけてもらったことにとても感謝しています。

また、ホストファミリーの皆さんは、私達を温かく迎え入れ、とても親切に接していただきました。本当にありがとうございました。

大人になったら、またオーストラリアに行きたいです。



新谷中学校
松田 真緒さん

初めは不安もあったオーストラリア研修。でも、自分が想像していたよりも楽しく、かけがえのない2週間となりました。

私が出会ったホストファミリーの家には、イタリアとスペインの人と一緒に住んでい

て、毎日10人くらいでテーブルを囲み夕食を食べました。私の、単語をつなげたような、たどたどしい英語も、相づちを打ちながら最後まで聞いてくれて、4か国の人とクリスマスやイースターの話をして、毎日にぎやかで楽しかったです。

最初の1週間は、世界遺産のキュランダの森やグレートバリアリーフに行ったり、オーストラリアの自然や文化にふれたり、たくさんの感動を味わうことができました。私が楽しく2週間を過ごせたのは、素敵なホストファミリーと一緒にたくさんのお話を学んだ仲間、支えていただいた先生、現地ですっとお世話をいただいた人などたくさんのおかげです。その新しい出会いやすべてに感謝して、これからもさらに頑張ります。



肱東中学校
吉良 真慧さん

まず、この15日間の派遣はとても楽しいものになりました。その楽しかった時間に、僕が学んだことは2つあります。

1つ目は、自分の英会話能力の未熟さです。特に、小学校への授業参加の時には、次々と投げかけられる質問に対して、頭が混乱してしまい、あいまいな返事しかできない場面が多くありました。質問の意味が分かって、簡単な返事しかできず、自分の伝えたいことが伝わらないこともありました。これからは、さらに学習に励み、海外で通じる語学力を身につけたいです。

2つ目は、ジェスチャーの大切さです。特にホストファミリーとの会話では、ジェスチャーを交えながら話してくれたので理解することが簡単になりました。

上記の2つ以外にも、たくさんのお話を学ぶことができました。支援して下さった関係者の人に感謝し、これからもさらに英語が上達するよう励んでいきたいです。

私は、肱川あらしの予報ナビゲーターとして地元で活動しています。そのため、より多くの人に肱川あらしのことを知ってもらいたいという思いでこの事業に参加しました。



長浜中学校

私がオーストラリアへ行って心に残っていることは、ホームステイです。体験活動もとても楽しくて心に残っているけれど、やっぱり10日間一緒に過ごした家族のことは忘れられません。最初はすごく不安で、これからちゃんとやっていけるかドキドキしたけれど、ホストマザーはとても優しく、娘さんのベイリーもフレンドリーですごく安心しました。ホストファザーには、残りの2日間しか会えなかったけれど、すごく優しくこのホームステイ先でよかったなと思いました。私が持って行った肱川あらしのDVDも見てもらって、「きれい」「見てみたい」と言ってもらえてとてもうれしかったです。

竹内 愛深さん

私は、この事業に参加できて本当によかったと思います。ありがとうございました。

私は、この海外派遣で大切なことをたくさん学びました。現地では、朝ご飯はシリアル、昼はサンドウィッチ、夜はパンと、オーストラリアでしか体験できないような食生活を送りました。



大洲東中学校

それは日本人の私には最初は受け入れがたいものでした。しかし、ホストファミリーの人が気を遣って、お米やレトルトの味噌汁など日本食も作ってくれて本当に優しい家族でよかったなと思いました。

長谷 楓さん

学校では、バディをはじめ、他の人たちとも会話をしたり、勉強したりしました。最後の日、クラスみんなから手紙をもらってとても感動しました。言葉は違っていても「思いやり」「気遣い」は、世界共通だと今回気付かされました。この経験をさせていただいた梶山教育振興会、大洲市、家族をはじめ、すべての人に感謝したいと思います。そして将来、外国の人と触れ合うときには、今回出会った人たちのように、「思いやり」と「気遣い」を忘れないでいきたいです。

僕は、今回オーストラリアに行かせていただいて、多くのことを学びました。1つ目は、「人と人のつながり」です。初めてのことばかりで、緊張していた僕に、ホストファミリーやバディの人たちは、笑顔で話しかけてくれました。その笑顔で、僕の不安は勇気になりました。それから後は、自分から英語で話しかけることができ、コミュニケーション力を高めることができました。



肱川中学校

谷田 恵亮さん

2つ目は「文化の違いを理解することの大切さ」です。そのなかでも、家の中で靴を脱がずに生活することは、最初すごく変な感じがしました。しかし、日が経つにつれてだんだん慣れてしまい、日本の家に帰ったときには、靴を脱ぐことに違和感を覚えました。その国の文化(生活習慣)に慣れることが、その国を知ることにつながるということを実感しました。この経験を、これからの生活に生かしたいと思います。このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

今回のオーストラリアでの、10日間のホームステイは、私にとって初めての経験ばかりで本当に楽しく、たくさんのことを学ぶことができました。



長浜中学校

宮岡 萌映さん

ホームステイでは、コミュニケーションがとれるかなど緊張と不安でいっぱいでした。そんな私に優しくしてもらい、本当の家族のように楽しいリラックスした時間を過ごすことができました。

ケアンズでの体験活動では、熱帯雨林の町キュランダ、クロコダイル・アドベンチャー、ケアンズ市役所、グリーン島などいろいろなところに行きました。たくさん貴重な体験ができました。オーストラリアの小学校での授業でも、日本とは違うところが多く新鮮でした。

優しくしてくれたホストファミリー、分かるまで丁寧に教えてくれたバディ、積極的に話しかけてくれたクラスメイト、そのほかオーストラリアでの生活をサポートして下さった人には、本当に感謝しています。今回のたくさんのお会いをずっと大切にしたいです。



団長
肱東中学校
校長 村上 孝之 たかゆき

まだ夜の明けきらぬケアンズ空港に降り立つ私たちを歓迎してくれたのは、ベストシーズンであるにもかかわらず連日続いた雨の名残と、名も知らぬ南国の小鳥たちの目覚めを告げるけたたましい鳴き声だった。その日から4日間、私たちは毎日野外活動を行うことになってい

たが、幸いなことに連日好天に恵まれ、真冬にもかかわらず日中は汗ばむほどの暑さだった。約2週間の滞在のうち、前半はケアンズにある2つの世界自然遺産、キュランダとグレートバリアリーフ内のグリーン島、ハートレイクロコダイルセンターを訪れ、広大な熱帯の原生林や世界最大の珊瑚礁が作り出す景観の素晴らしさを満喫すると共に、そこに生息する動植物について見識を深めた。また、市役所を訪問した時には、会議場の議長席や議員席に座らせていただき、議会の進め方や実際の議事内容について現職議員さんから教えていただいた。さらに、環境保護政策が進むケアンズ市のゴミ処理システムについて、各施設見学を交えて学んだ。幸運にもその日は、移住者を国民として正式に認める式典が全土であり、私たちも参加させていただいた。この国の人々の寛容さは、多民族国家故であることを実感した出来事だった。

オーストラリアの自然や歴史、文化、人々の生活などに直に触れるこれらの体験は生きた学習となった。その体験を元に進めた英会話学習では、単に英会話の上達に留まらず、現地の文化や人々の生活への理解をさらに深めるものとなった。後半の1週間は小学校の授業に参加し、現地の子どもたちと触れ合った。子どもたちは快活ですぐに派遣生にうち解け、派遣生も積極的に交流し、授業や遊びを通して友情を深めていった。この絆こそ今回の研修の最大の収穫であり、生徒の一生の財産となった。最終日の校庭で、いつまでも抱き合い、別れを惜んでいた子どもたちの姿が、その何よりの証である。



引率
大洲北中学校
教諭 市尾 寿美 いちお としみ

ケアンズ市内から30分くらいのところに、私たちがお世話になるホーククロス小学校があり、その隣にいつも集まる公民館があった。

それぞれのホストファミリーは、毎日学校まで送り迎えをしてくれた。私は、生徒たちのホストファミリーと出会うこの

時間が大好きで、毎朝「G'day, mate!」と元気にあいさつし、その日の出来事をそれぞれの家族に伝え、家族からは、家での様子を伝えてもらった。それぞれの家庭の過ごし方はさまざまだが、生徒たちのことをラブリーチルドレンと呼び、自分たちの子どものように大切にしてくれていた。生徒たちも、他の家族との生活で疲れることもあったと思うが、みんな前向きに異文化を楽しんでいた。

2週間はあっという間に過ぎ、当たり前前の光景が終わりだと思うととても悲しかった。いつもはみんなを見送っていた私だが、最後の日は見送られる立場だった。ホストファミリーからは「ラブリーチルドレンをオーストラリアに残してほしい」と頼まれたし、最後まで一緒にいてくれた。私も、出発の朝ホストファミリーからメッセージカードをもらったが、涙で読めないほどこのオーストラリアの家族が大好きで、楽しい毎日だった。

2週間の滞在だったが生徒たちが経験したことはとても濃く、オーストラリアの文化を肌で感じ取っていた。この地だからこそできる活動を楽しんだだけでなく、ここで出会った人たちの温かい心や楽しい会話があったからこそ、こんなに思い出深いものになったのだと思う。彼らの心の輝きが見られる瞬間に、同じ気持ちで、同じ場所で生活できたことにとっても幸せを感じる。そして、より多くの大洲の子どもたちに、このホームステイを体験してもらいたいと思う。勇気を持って1歩を踏み出したら、無限の可能性が広がり、自分のまわりの世界が広がる喜びを、たくさんの生徒に感じてもらいたい。

大洲市中学生海外派遣事業は、公益財団法人 柘山教育振興会の支援を受けて、平成10年度から実施しています。今年度の派遣で156人の中学生がこの事業に参加し、海外での貴重な経験をしています。

テレビや雑誌、インターネットなどで他国の情報を入手することはできますが、実際に体験することは何物にも代えがたい自分自身の宝物になります。

これからも大洲市では、世界で活躍する人材の育成を目指して、中学生海外派遣事業を継続して実施します。

防災シリーズ No. 3

11月5日は津波防災の日です

愛媛県の南海トラフ巨大地震被害想定（平成25年公表）によると、長浜港では、地震発生からおよそ2時間45分後に最高津波水位の3.8メートルに達し、最大2メートル未満の浸水が想定されています。

津波から命を守るには、津波が来ない高い場所へ避難するしかありません。地震があれば、すぐに避難することを肝に銘じておきましょう。

【津波に備える5つのポイント】

▽揺れが小さくても津波が来る場合がある



津波の危険地域では小さな揺れでも、まずは避難を優先しましょう。

▽「津波はない」という俗説は信じない



根拠のない伝聞や俗説に惑わされず、気象庁の津波情報に従って行動しましょう。

▽引き潮がなくても津波は来る



引き潮がなくても津波が襲ってくる場合があることを肝に銘じておきましょう。

▽「遠く」よりも「高く」へ



避難する時間がない時は、遠くよりも高い所へ避難しましょう。ここから安心と思わず、より高い所を目指しましょう。

▽津波注意報・警報が出たら



海の近くにいる人はただちに海岸から離れましょう。津波の危険地域にお住まいの人は、避難の準備をし、高い所へ避難しましょう。

津波は繰り返し来襲するので、注意報・警報が解除されるまでは、絶対に海岸に近づかないようにしましょう。

文化財



ゆりなに
百合谷の大イチョウ
大洲市指定天然記念物
個人所有

かわかみ
河辺町川上地区の百合谷にある本樹は、根回り9.8m、目通り4.7m、樹高約25mで樹齢約250年になる雄株のイチョウです。

きんりゅう
東西22m、南北28.5mにもなる枝張りは、金竜寺のイチョウ（県指定天然記念物）に次ぐもので、隣接する虚空蔵菩薩堂（市指定有形文化財）の屋根を覆うほどの大きさとなっています。

また、本樹の枝には、きこんと呼ばれる大きな円錐形の突起が垂れ下がっているのが多数見られ、大木らしい雰囲気が感じられます。

かやぶき
葉の色づく時期には、黄金色に輝く葉と茅葺の虚空蔵菩薩堂との調和のとれた美しい光景を見ることができます。

（昭和47年9月14日指定）

野鳥



ムギマキ（麦藁）
スズメ目 ヒタキ科
全長13cm

この鳥は、ユーラシア大陸の北東部や樺太周辺で繁殖して、東南アジアなどで越冬する、キビタキによく似たヒタキの仲間です。数年前までは、珍鳥の部類に数えられ、出現すると大騒ぎになることさえありましたが、現在ではバードウォッチャーも増えて、通過する時期さえ見逃さなければ毎年出合える、普通の野鳥ということが分かりました。名前の由来は、麦の種をまくころに姿を現わすことから、そのまま名付けられたようです。

昔の人たちは、農作業をするにも季節の移り変わりをスズメ以下の小さな鳥の出現によって敏感に読み取り、利用していたのには驚きます。夏の暑さや、水の冷たさも知らず、年中快適な環境が当たり前になった現代社会において、今にも消滅してしまいそうな五感を、今一度よみがえらせる時期がきているような気がします。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑧

大洲市消費生活センター通信

増加の一途

高齢者の消費者トラブル

高齢者の消費者トラブルが、毎年増加しています。特に、認知症などの理由によって、判断能力が不十分な状態になっている高齢者の消費者トラブルが、2013年度に1万件を超え過去最高となりました。(国民生活センターHP)家族や周囲の「見守り」と「気づき」が大切。認知症等高齢者の消費者トラブルが過去最高に!!(2014年9月11日)より一部引用)

大洲市でも、65歳以上の高齢者が全人口の32パーセント(8月末現在)となっていて、消費生活センターでも昨年度の相談受け付け150件のうち、65歳以上の相談当事者数は41パーセントとなりました。高齢者自ら相談される場合もあります。周囲の人からの相談も数多く見受けられます。日頃から身近な高齢者の様子や、言動の変化に気をつけ、被害に遭っている場合には消費生活センターなどに相談しましょう。

【チェックリスト】

▽自宅周辺に不審な車があったり、業者の出入りなどはないか。
▽頻繁に宅配業者などが来ていないか。
▽過量に生活用品や食品などがなにか。

▽お金に困っている様子はないか。
その他、普段の様子との変化に気づいたら、声かけや相談窓口に連絡してください。「気づき」と「声かけ」で、消費者トラブルを防ぎましょう。

【問い合わせ先】

大洲市消費生活センター

☎241790

【相談受付時間】

平日午前9時～正午
午後1時～5時

※大洲市でも、9月に

現金自動預払機(ATM)を使った、振り込み詐欺が発生しています。市役所からATMの操作を依頼することはありませんので、ご注意ください。



大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

今月号の16ページに掲載してありますが、大洲まつりが11月に開催されます。

商工会議所青年部では、大洲まつりにあわせて「第2回大洲がもっと好きになるクイズ大会」を実施します。昨年は、雨にもかかわらず300人に参加していただき、大洲の魅力を知っていただきました。

今年も楽しいクイズをみなさんにお届けします。11月3日(月)に油屋駐車場で開催しますので、ぜひご参加ください。

【今月のクイズ】

大洲藩の総鎮守だった八幡神社では、約300年続く伝統行事の大名行列を行っています。先頭の武士団は、独特の歩き方をします。これは、当時の歩き方を再現していますが、どのような場面で行っていた歩き方でしょうか。

- ① 参勤交代をする時
- ② 殿の警備をする時
- ③ 町の警備をする時
- ④ 刀狩をする時



【先月号のクイズの解答・解説】

大洲で栽培されている農産物の中で、愛媛県一位の出荷量を誇るものはどれでしょうか。答えは2つ。

- ① トマト
- ② クリ
- ③ ナシ
- ④ サトイモ
- ⑤ シイタケ

解答…「②クリ・⑤シイタケ」

解説…シイタケは肉厚で煮ても焼いてもおいしく、11月には、しいたけフェスタが開催されます。意外と知られていないのが、クリの存在です。高い評価を得ている大洲産のクリですが、認知度が低く、ブランド化による知名度向上が課題です。大洲市の風景と農産物を一緒にPRして、観光集客の一翼を担ってほしいものです。



※今月のクイズの答えは、広報大洲12月号に掲載します。

シリーズ・大洲市地域づくり表彰

平成25年度「大洲市地域づくり表彰」を受賞されたみなさん（4個人、1団体）を、シリーズでご紹介します。



【富永さんからのメッセージ】
私は、自治会役員として12年間、活動させていただきました。自治会活動は、安心安全で連帯感のもてる地域づくりを心掛けていました。
まず、最初の取り組みとして、分館施設に、コピー機、パソコン、プリンターなどを購入し事務処理の効率化を図り、カラオケ設備と防音施設を設置しビデオプロジェクトを一式を整備し、地域内外の交流促進につなげました。
次に、防災意識を向上させるために、住宅用火災警報機



地域づくりに貢献

若宮地域自治会前会長

富永 俊平さん
(若宮)



の幹旋や防犯灯、AED、防災用品の整備をしました。喜多小学校の南門を整備することで、小学生の通学の安全確保と、災害発生時の避難場所への避難時間短縮が図られました。
このように、各種備品などの整備を進めることができたのは、市からの支援のおかげだと、感謝しています。
現在、役員を引き受けてもらえる人が少なくなっています。自分たちの地域を自分たちで守るために、これからも地域づくりに携わっていきたいと思います。

大洲藩主加藤家の文化財（第陸幕）



加藤泰温（かとうやすあつ）

大洲藩5代藩主加藤泰温は、享保元年（1716）加藤泰統の嫡男として江戸に生まれ、享保12年（1727）父泰統が亡くなると12歳で家督を相続しました。

泰温が藩主となって初めて大洲へ入った享保17年（1732）は、城下町で360軒余りを焼失する火災が発生したほか、夏からの長雨とウンカが大発生した年になります。このため、食料不足が深刻化すると、大洲藩領内でも数多くの飢人（うえた人）・餓死者が出ており、大洲城下だけでも飢人521人、餓死者は19人にのぼったと言われています。これがいわゆる享保の大飢饉です。

さらに、元文5年（1740）には、600軒余りの町家が類焼する大洲城下最大の火災が発生するなど、度重なる災害から大洲藩の財政はひっ迫した状態となりま

した。そのため、藩では極度の緊縮財政を図ることとし、藩主をはじめ台所方の経費まで強い制限を加えたほか、五郎の玉川にあった御茶屋（藩主の別邸）や京都屋敷の廃止を進めました。

若くして藩主となった泰温は、陽明学者の三輪執斎を江戸屋敷に招き講義を受けると、陽明学の思想に深く傾倒し、藩内にもこの学問を広めようと、執斎の高弟である川田雄琴を召し抱えます。

雄琴を召し抱えた泰温は、陽明学を広めるために藩校の建設を計画し、泰温自ら率先して節約を行い建設資金の貯蓄を図ります。ようやく延享元年（1744）、泰温は藩校の建設を命じますが、翌年志し半ばにして、江戸において30歳の若さで没してしまいます。遺骸は大洲へと運ばれ、如法寺に葬られました。



如法寺にある泰温の墓所



肱川町の魅力をお届けに ～肱川イベント松山広場～

肱川町の自然・味・文化を紹介し、観光情報を発信することを目的に、松山市の道後にあるからくり時計前で「第26回肱川イベント松山広場」が開催されました。

早朝から降っていた小雨は開会と同時にあがり、会場では多くの観光客と新鮮な野菜を買い求める人などでにぎわいました。



長崎でのナイスショットを誓って ～長崎国体出場報告～

長崎県大村湾カントリークラブで10月12日(日)から14日(火)まで開催の、長崎がんばらんば国体2014ゴルフ競技へ出場する、帝京第五高等学校2年生の河合聖哉^{せいや}さんが市役所を訪問しました。

河合さんは、7月に高知県で行われた四国ブロック大会で優秀な成績を収め、国体出場を決めました。長崎国体での活躍を期待します。



ルールを守って、安全第一 ～交通安全鼓笛パレード～

河辺小学校・幼稚園の児童・園児による交通安全鼓笛パレードが行われました。

パレードでは、校歌やミッキーマウス・マーチなど全4曲を演奏し、沿道の人たちに交通安全を呼び掛けました。

最後に、「交通安全五つの誓い」を元気よく唱和し、交通ルールを守ることを約束しました。



おイモと思いを届けます ～「大洲のいもたきセット」初荷出発式～

大洲旬を愛する会による、いもたきセットの初荷出発式が、ヤマト運輸株式会社大洲支店にて行われました。

荷造りでは、白石成子^{しげこ}会長が「みなさんでふるさとの味を楽しんでほしい」と述べ、会員が大洲産サトイモやシイタケなどを、一つひとつ思いをこめて箱詰めしました。

おめでとうございます
平成26年度数え年100歳訪問



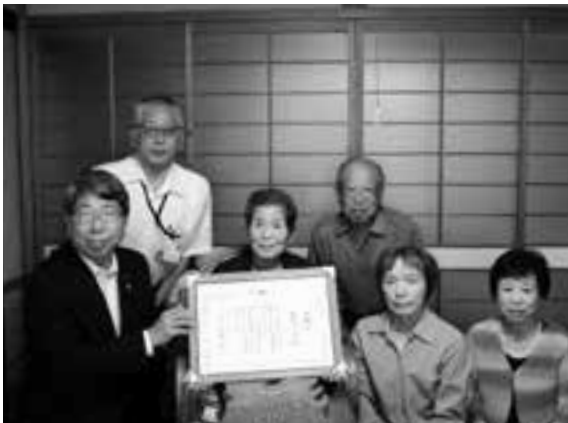
今年で数え年100歳を迎える市内の長寿者を顕彰しようと、9月16日(火)、清水市長と井上老人福祉センター所長が対象者を訪問しました。この顕彰は毎年行っているもので、今年は大正4年生まれの人を対象としています。

この日、市内対象者8人の家庭・施設を関係者が訪れ、対象者一人ひとりと懇談し、記念品の贈呈などを行いました。肱川町山鳥坂在住の和氣ハッコさんを訪問した清水市長は「朝晩涼しくなりましたが、体調などお変わりないですか。

近年は人口減が進んでいますが、再び活気を取り戻す肱川町を見守っていたきたいので、ぜひ長生きしてください」と話しました。

清水市長の言葉に和氣さんは「足が少し不自由になりましたが、耳はよく聞こえますし、何でも好き嫌いなく食べています。これからも元気で過ごしていきたいと思っています」と述べられました。

今後も大洲市では、高齢者にも住み良いまちづくりに取り組んでいきます。



全日本軟式野球大会が40年ぶりに大洲市で開催

軟式野球の社会人日本一を決める「天皇賜杯第69回全日本軟式野球大会」が9月12日(金)から17日(水)まで、松山市の坊っちゃんスタジアムをメイン球場として、県内8球場で開催されました。

八幡浜・大洲地区運動公園野球場では、13日(土)に市内の選抜チームである大洲市役所チームが、平成24年度の準優勝チームを相手に初戦を行いました。

市役所チームは、ヒットで再三ノーアウトのランナーを

出しましたが、決定打を打つことができませんでした。

一方相手チームは、7回までノーヒットに抑えられていましたが、終盤にホームラン1本を含む集中打で4点を奪う底力を発揮しました。

最終的には4対0で惜しくも敗れてしまいましたが、過去の準優勝チームを最後まで苦しめた、地元チームの活躍が光りました。球場に詰め掛けた多くの観客からは、両チームの健闘をたたえ温かい拍手が送られました。



地域防災力の向上を目指して「防災キャラバン in 大洲」

愛媛大学防災情報センターと大洲市の共催による「防災キャラバン in 大洲」が9月28日(日)、大洲市総合福祉センターで開催され、約150人の市民が参加しました。

キャラバンでは、愛媛大学防災情報センターの二神透准教授による「県の地震被害想定と大洲市の減災」と題した講演が行われ、過去の大規模災害や県の地震被害想定を基に、家庭で実践できる防災・減災について説明を受けました。

続いて、松山気象台の藤原清次長から、大雨や台風による災害から身を守るために、気象庁が発表する災害情報の種類や内容についての講演があり、参加者たちは熱



心に耳を傾けていました。

事例発表では、大洲市消防団の上田恒雄副団長が、全国で消防団員が減少する中、機能別消防団員制度を導入した大洲市では、団員が増加し、総務大臣から感謝状を受領したことや、防災活動を展開する消防団の活動について発表しました。

この日は、市と災害協定を締結しているダイキ株式会社による防災用品の展示ブースが設けられ、大勢の人が非常食や防災資機材について説明を受けていました。

防災キャラバンは、平成23年から始まり、県内市町で順次実施されています。

広島土砂災害現場に緊急消防援助隊を派遣

8月20日(水)早朝に大規模な土砂災害が発生した広島市に、大洲地区広域消防事務組合から緊急消防援助隊が派遣されました。

8月21日(木)から30日(土)までの10日間に3隊15人が派遣され、菊岡幸造第1次隊長、福樹宏昭第2次隊長、富永真史第3次隊長から9月2日(火)に市長へそれぞれの隊からの活動報告がありました。

愛媛県隊が活動した安佐南区八木地区は想像を絶する状態で、時折降雨があり隊員の疲労は激しく、退避命令がかかるなかでの活動となりました。愛媛県隊は、活動期間中県下9消防本部延べ151人の隊員が活

動を行い、2人の行方不明者を発見し救出しました。

災害現場の惨状や行方不明者の捜索活動、土砂の撤去の様子などについて、現場の地図や写真を示しながらの報告に対し清水市長は、「山間部の多い大洲市でも、地震や大雨の時には土砂災害の発生する可能性が極めて高い。もし土砂災害が発生した時には、今回の経験を生かして、被害者の早期発見・早期救助をお願いしたい」と述べました。

この災害により、亡くなられた人たちのご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念します。



第26回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道

「龍馬を語る夕べ」が9月27日(土)に、演歌歌手の大林幸二さんをゲストに迎え、河辺ふるさととの宿で開催されました。

「大林幸二さまぐれ歌謡ショー」と題した第一幕では、前夜祭恒例の曲となっている大林さんの「奔れ！龍馬」を始め、歴史を題材にした歌や軽快なトークで会場は大いに盛り上がりました。最後は「奔れ！龍馬」を参加者全員で歌い、翌日の完全踏破に向け気持ちを一つにすることが出来ました。

28日(日)には、「第26回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」が行わ



れました。

河辺ふるさと公園で行われた出立式では、参加者を代表して、松山市から参加の川崎敏彦さん玉枝さんご夫妻が、力強い完全踏破宣言を行い、その後龍馬役を先頭にスタートしました。

約300人の参加者は、Aコース(榎ヶ峠く泉ヶ峠)とBコース(河辺ふるさと公園く泉ヶ峠)の2コースに別れ、涼しい風が吹く秋晴れのなか、約150年前に坂本龍馬が脱藩した河辺の道を、それぞれの思いを込めて歩きました。

城山公園の説明板が新しくなりました

城山公園の説明板は、大洲城の天守復元に合わせて平成16年に設置し、古絵図を使って大洲城に存在した櫓や門などの説明をしていました。しかし近年、盤面が日焼けして説明書きや写真が見づらい状態でした。

今回新しい説明板(18枚)を製作するにあたり、帝京富士高等学校の平井一博先生と、姉妹校である韓国^{アンサンガンソ}の安山江西高等学校からの留学生^{パクヘウオン}、朴惠元さんと下関松さんに協力していただきました。櫓や門などの名称説明に、新たにハングル文字を取り入れた説明板が完成しました。

大洲城へお越しの際は、公園の新しい説明板もぜひご覧ください。

【問い合わせ先】

都市整備課

☎24-1719



りえ 王理恵さんを迎えて

9月17日(水)、県立大洲農業高等学校で、雑穀料理研究家、野菜ソムリエなど食のスペシャリストとして活躍中の王理恵さんをお迎えし、食に関する交流会が開催されました。

交流会では、食品化学科3年生から、地元の伝統野菜おうど芋料理についての研究活動が発表されました。王さんからは、現在取り組まれている活動について話をいただきました。また、父親の病気療養中に野菜ソムリエとしての知識を生かし、食事療法により父親を支えた体験談などを話されました。

食のプロフェッショナルを目指している高校生にとって、とても参考になる交流会となりました。

